おしえて、エコチル先生！（第3回）

山梨大学大学院　山縣然太朗先生
（聞き手：千葉大学准教授　戸髙恵美子）

おしえて！エコチル先生、今回はエコチル調査甲信ユニットのセンター長でいらっしゃる、山梨大学大学院医学工学総合研究部附属出生コホート研究センター長の山縣然太朗（やまがた・ぜんたろう）先生に、今、子どもの追跡調査をする意味について伺いました。

―　山縣先生、「出生コホート調査」とはそもそもどういう意味ですか？

「出生コホート」とは、ある一定期間内に生まれた人口集団のことです。ですから、「出生コホート調査」とは、特定の時期に生まれたグループを対象に追跡調査することです。エコチル調査も、平成２３年１月から２５年１２月までの３年間に国内の調査対象地域で生まれる赤ちゃん１０万人を対象に、赤ちゃんが成長して１３歳になるまで追跡する出生コホート調査です。

―　山縣先生は、これまでにも出生コホート調査を担当されてきたのですね？

そうです。山梨県の旧塩山市を中心とした出生コホート調査「甲州プロジェクト」を２５年間続けてきました。地域の母子保健活動の一環として妊娠の届け出時から、お子さんが生まれてから５歳までの健診の場を利用してさまざまな健康情報を集めています。さらに、小中学校の校長会のご協力により小・中学生時点のデータとリンクしてどのような生活が成長後のどのような健康影響として出てくるかを調べています。

―　調査の結果、わかってきたことは？

お母さんの妊娠中の喫煙は低出生体重児を生む可能性が高くなることは知られていましたが、この調査では妊娠中の喫煙がお子さんの成長後の肥満と関係していることがわかりました。５歳の時点では妊娠中に

タバコを吸わなかったお母さんのお子さんと比べて約４倍、１０歳の時点では約３倍肥満になる可能性が高くなるという結果が出ました。ほかに、妊娠中のお母さんが朝ごはんを食べないと、やはり生まれてくるお子さんの肥満につながります。興味深いのは、男女で影響が異なることです。男の子の方が女の子よりも影響が出やすいのです。このようなことはたくさんの人が参加する調査で初めてわかることです。

この結果をもとに喫煙対策のリーフレットを作り、啓発活動をしているところです。妊婦の喫煙は妊娠届出時に個別に行っていますが、これにより、妊婦の喫煙率がさらに減少し、家族の喫煙対策にも寄与することを期待しています。

― お子さんの健康の改善にはどのように役立つのでしょうか。

子どもの死因の第一位は「事故」です。事故の原因としてタバコやコインの誤飲があります。そこで、甲州プロジェクトでは乳幼児健診の際にお母さん方に説明して事故を未然に防ぐよう呼びかけました。結果として事故に対する意識は高くなったようです。

― 先生は厚労省による「健やか親子２１」にも参加されていたのですね。

「健やか親子２１」は２００１年から始まり、１４年間続けられる予定の、母子保健を推進するための国民運動です。思春期の子供たちの健康や快適で安全な出産、不妊症対応、小児医療水準の維持、虐待防止など、親と子どもたちの健康向上のために今必要とされるさまざまな対策に、自治体や母子保健の関連団体が中心となって取り組んでいます。この運動により、たとえば高校三年生の男子の喫煙率が、運動開始前は３６％だったものが、２００５年には２０％に、２００９年では１２％にまで減っています。そういった改善傾向がみられる一方で、今の問題は、子どもの自殺、虐待、思春期のやせ過ぎなどが増加していることで、現在十代後半の子どもの死因のトップは自殺になってしまっています。これらの課題に取り組む必要があります。

― 先生はこれまでに複数のコホート調査を行ってこられて、今回エコチル調査に参加された理由はなんですか？

最近、子どもの病気も家庭環境も多様化してきています。たとえば子どものアレルギーの原因も昔と同じではなく、原因も、発症するメカニズムも変化しています。１０年前と同じ治療法では対応できないアレルギーも増えているのです。そのような病気の原因を明らかにするには、より大きなコホート調査が必要と感じていました。環境や遺伝的な影響は、全国的な規模でしかも長期間追跡調査をしてみないとわかりません。この調査によって、将来、特定の疾患を予防することが可能になるのではないかと期待しています。健康管理は、大人はある程度自分でできますが、子どもは自分ではできませんので社会を改善して守ることが大切です。

— 子どもの健康を守るのは大人の役割、ということですね。この一年間エコチル調査を推進してこられて、ご感想はいかがですか？

この問題について関心を持っている人は非常に多いと感じます。協力をお願いすると８割以上の方が快く応じてくれますし、アンケートにもしっかり答えてくれています。産婦人科や小児科の先生方も調査の重要性を理解し、忙しい中でも積極的に協力してくださり、とても助かっています。息の長い調査ですのでこれからも多くの方にご協力いただければ大変うれしく思います。そのために、多くの皆様にエコチル調査の重要性をご理解いただき、ご支援いただいた信頼を裏切らないように調査を実施していく必要があると気を引き締めています。

— 本日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

（2012年１月27日）

■今月のエコチル先生

山縣然太朗　先生

エコチル調査甲信ユニットセンター長
山梨大学大学院医学工学総合研究部
附属出生コホート研究センター長